

一般社団法人 日本創傷外科学会

## 専門医試験

～筆記試験過去問題集～

第3回専門医試験

問題 1) 下肢の慢性創傷について正しいのはどれか。

1. 顔面に比べ、頻度が少ない。
2. 創傷治癒過程が損なわれる原因が存在する。
3. 通常、6ヶ月経っても治癒しないものをさす。
4. 原因として悪性腫瘍が多い。
5. 上肢に比べ、治りが早い。

問題 2) 足部の創傷治癒で正しいのはどれか。

1. 足底の皮膚創傷ではアポクリン腺から上皮化する。
2. 糖尿病性神経障害による潰瘍の好発部位は足背中足骨遠位である。
3. 糖尿病性足病変では乾燥し、脂肪層が菲薄化する傾向にある。
4. Hammer toe 変形では趾背に潰瘍を起こさない。
5. 免荷は必要ない。

問題 3) 静脈うっ滞性潰瘍について正しいのはどれか。

1. 男性が女性よりも多い。
2. 好発部位は、下腿の腓腹筋部から内果にかけての内側である。
3. 小伏在系の穿通枝部位に生じやすい。
4. 歩行不可である。
5. 一度治癒すれば、圧迫を行わなくてもよい。

問題 4) 透析患者についての記載で誤っているのはどれか。

1. 透析患者は毎年増加している。
2. 透析患者の四肢大切断率は非透析患者よりも高い。
3. 透析患者では血管の石灰化を起こしやすい。
4. 透析患者では ABI(ankle-brachial pressure index)が高くなりやすい。
5. 透析患者の遊離皮弁移植は、禁忌である。

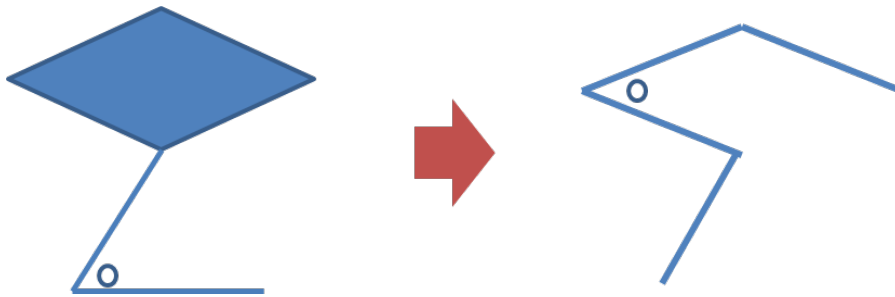
問題 5) 糖尿病性壊疽の手術加療で誤っているのはどれか。

1. 足部の血流評価が大切である。
2. 手術適応は、壊疽の大きさできまる。
3. 感染の評価が大切である。
4. 重症下肢虚血を合併することがある。
5. 遊離皮弁移植は適応がある。

問題6) シリコンインプラントによる豊胸術の被膜拘縮について正しいのはどれか。

1. 感染が原因となる。
2. 血腫は原因とはならない。
3. スムースタイプに比べテクスチャータイプで生じやすい。
4. ほとんどが術後1年以降に生じる。
5. 大胸筋下挿入より乳腺下挿入で生じやすい。

問題7) 下図の皮弁は何であるか。



1. Advancement flap
2. Rotation flap
3. Limberg flap
4. Dufourmental flap
5. Rhomboid-to-W flap

問題8) 通常、皮膚に存在しないとされるのはどれか。

1. I型コラーゲン
2. II型コラーゲン
3. III型コラーゲン
4. IV型コラーゲン
5. V型コラーゲン

問題 9) 有棘細胞癌の発生母地として誤っているのはどれか。

1. 慢性放射線皮膚炎
2. 白板症
3. 熱傷瘢痕
4. 尋常性狼瘡
5. 黒色表皮腫

問題 10) 肉芽組織について誤っているのはどれか。

1. 血管、結合織を主体とする組織である。
2. 潰瘍創に生じた場合、周囲健常組織より盛り上がることもある。
3. 瘢痕として治癒することはない。
4. 創の収縮が創閉鎖に関与する。
5. 健康肉芽は感染に対し抵抗力が高い。

問題 11) 創傷治癒を促進するのはどれか。

1. ステロイドホルモンの投与
2. ビタミンCの投与
3. 低アルブミン血症
4. 抗癌剤の投与
5. 糖尿病

問題 12) 放射線皮膚炎の組織像について誤っているのはどれか。

1. Hyperkeratosis
2. 皮膚付属器の委縮
3. 真皮全層から皮下組織にかけての高度の線維化
4. 血管壁の肥厚
5. 表皮肥厚

問題 13) Random pattern flapの記述で誤っているのはどれか。

1. 皮弁は骨露出部などの被覆にも用いることができる。
2. 静脈血の流出が不良なとき、皮弁は壊死に陥りやすい。
3. 皮弁茎の過度の緊張、捻じれに注意する。
4. 皮弁の幅と長さの比に制約がある。
5. 皮弁の切り離しの時期は通常1週間後である。

問題 14.) 閉鎖創や非感染創の処置について誤っているのはどれか。

1. 手袋を着用する必要はない。
2. 滲出液がある場合には、1個目の綿球でふき取り、2個目の綿球で消毒する。
3. CVカテーテル挿入部の処置を同時に行なう場合には、挿入部の処置を行った後に創処置を行う。
4. ゴミ袋（感染性廃棄物）を所定の廃棄物容器に廃棄する。
5. エプロン着用の場合には、手袋を外したあとにエプロンを外す。

問題 15) 新鮮熱傷におけるTangential excisionについて誤っているのはどれか。

1. 深達性Ⅱ度熱傷（DDB）を対象に行う。
2. 点状出血が見られるまで熱傷創を切除する。
3. 受傷後14日以降に行う。
4. 手背は良い適応である。
5. 熱傷後早期の組織壊死の拡大を防ぐ目的で行う。